

VIVID LETTER

No.22

発行 2019/3/15

フレッシュスタート目白1周年	1
高次脳機能障害相談 VIVID	2
リーディング劇がうながす高次脳機能の回復	3
ひとこと通信	4
お知らせ・VIVIDからのお願い	4

“VIVID”は高次脳機能障がい者の社会参加を支援する特定非営利活動法人です。

特定非営利活動法人 VIVID(ヴィヴィ)
〒161-0033
新宿区下落合 4-20-16 ルイ目白 103
TEL : 03-5849-4831 FAX : 03-6908-3364
Eメール hbd-vivid@vivid.or.jp
HP <http://www.vivid.or.jp>

フレッシュスタート目白1周年 利用者主体を大切に。ショップからつながる地域

フレッシュスタート目白（以下フレスタ）が開所して、1年が経とうとしています。と書いてみて、もうそんなに経つのか・・・とびっくりしています。カレンダーを見ると確かにそれだけ過ぎている。しかし実感としては、まさに「あっ」という間の1年を振り返りながら、2年目に踏み出します。

サービス管理責任者・遠藤伸



スタートは、ななしづくし

開所当初の4月を思い出すと、何もなかったところから始まったなあ、という印象です。

個人的なことでは、サービス管理責任者という役目を任せてもらったものの、フレスタの法的位置づけである「就労継続支援B型事業所」で勤めるのは初めて。

作業の中心は「リユースショップ」と「緑化作業（新宿区からの委託で、区内の特別養護老人ホームの庭に花を植える作業）」ですが、ショップ経験はなし、植物を育てたこと

もなし。新規開所なので、ショップも作業スペースも、初めは何も物がなし。そして、通所してくる利用者の方々とも、初対面で面識なし。ななしづくしのスタートでした。



フレスタのショップ入口

「得意」をいかす！

そんなところから、形を作っていくのは、大変でもあり、楽しくもあり。いや、やっぱり大変だったかも。

けれど、何もなかったからこそ、利用者と一緒に事業所を作っていくことができ、フレスタの方針「利用者主体」につながったかな、と思っています。

当初は作業手順も固まっていなかったもので、すべて手探りででした。



バックヤード
値札作成の作業中

今では、例えば「リユースショップ」の作業は、「レジ打ち」「ショップの棚整理」「値札作り」「値札付け」などなど、細かく作業内容が分かれています。が、それも試行錯誤しながら作ってきました。

「得意なことをいか

して働く！」という考えのもと、新たなメンバーが増えるたびに、「絵が得意」⇒「チラシを描いてもらおう！」「パソコンが得意」⇒「売り上げを入力しよう！」と新たな役割も増えていきました。

ショップは地域につながる窓口

ショップを持っていることの利点のひとつは、自分たちの仕事の結果をその場で見られることだと思います。自分たちの行っている作業が、お客様へとつながっていることが実感でき、工夫してみよう、いい仕事をしよう、というモチベーション向上につながっています。利用者にも、「ここは自分たちのショップ」という主体的な意識が芽生えやすかったのだと思います。利用者同士の話し合いの場「利用者会」では「地域征服＝地域で知られる店になろう」という目標が掲げられ、この1年、スローガンのようになっていました。

もうひとつの利点は、地域につながりやすいこと。地域征服という目標を掲げたとおり、お客様を増やすためには地域を意識するようになります。また、ショップを通してお客様と接する機会が増えるので、地域の方に存在を知ってもらえ、自然な交流が生まれやすくなっています。

2年目のフレスタ

さて、2年目のフレスタです。嬉しいことに地域の方からの提供品も増え、ショップも作業スペースもたくさんの物で溢れています。利用者の方も倍以上に増えました。手探りながら試行錯誤して経験値も増えました。

はじめに書いたようにあっという間に過ぎた1年。ここにきて今一度立ち止まって、就労継続支援B型の意義を考えたいと思っています。ひとりひとりにとって「働く」とはどういうことなのか、一緒に考えていきたいです。そして、地域とどうつながっていくか。これも重要な課題だと考えています。

2年目は、引き続き利用者の方々とフレスタをつかっていきながら、周りの景色も見ながら進む1年にしたいと思います。



緑化作業は人気です！

高次脳機能障害相談支援 VIVID

高次脳機能障害相談支援 VIVID の仕事 「サービス等利用計画」と「受給者証」

相談支援 VIVID は、障がいのある人の生活に必要な日々の支援をまとめ「サービス等利用計画」を作成することを主な仕事としています。

障害福祉サービスは、障害者手帳がなくても利用できます（更生施設は身体障害手帳が必要）が、利用するには「障害者福祉サービス受給者証」が必要です。受給者証には利用者に合ったサービスの内容と時間数・日数などが記入されており、その根拠となるものが「サービス等利用計画」です。

支援がほしい、サービスを利用したい人は新宿区の障害者福祉課に本人（代理も可）が直接申請します。計画相談支援もサービスのひとつですが、サービス等利用計画の提出は義務となっています。説明がややこしいので A さんの例でお話しましょう。

高次脳機能障害相談支援 VIVID

事業所番号：1330401637

☎ 03-6380-2015

40歳のAさんは身体障がい者として、高卒後企業に就職し、約10年軽作業に携わったのちに退社、その後はハローワークで仕事を探し短期就労を繰返しながら約10年働いていた。3年前突然倒れ、低血糖脳症による高次脳機能障がいと診断され、医師から「今までのような働き方はできない」と言われ生活保護を申請した。高次脳機能障がいを知らなかったため、相談支援 VIVID を教えられ、相談するうちにサービス等利用計画作成につながった。

VIVID は相談支援として障がいの情報提供を行いながら、就労継続支援B型および就労移行支援事業所の見学をAさんと共に実施。その結果、以前の仕事に近いB型事業所を選択し「サービス等計画」を作成しB型への通所につなげた。

計画作成直前に入院があり、保健師と生保ワーカーの連携で、訪問看護による服薬管理と栄養指導、風呂付き住居への転居し家電を備え、身体・衣服の清潔の保持などを自分で行い、健康的な生活が送れるように計画をたてた。

この一連の経過も相談支援の仕事なのです。

（相談支援専門員：池田敦子）

リーディング劇がうながす高次脳機能の回復

新宿区委託高次脳機能障害者支援セミナー報告から今後への期待

2018年11月17日セミナー開催 新宿区委託高次脳機能障害者支援セミナー

「高次脳機能障害のリハビリ」 ～ワークショップで作る実践プログラム～

第1部：ワークショップ「落語・ザ・リーディング」

第2部：講演「高次脳機能障害の回復をうながすために」

今回のセミナーは、標記のタイトルで、ワークショップと講演の2部構成で開催しました。

今回のセミナーで取り上げたリーディング劇は、VIVID ミニデイのプログラムのひとつです。毎年度末3月に活動成果の発表の場として開催するミニデイ発表会では、メインの出し物として演者（利用者）にも観客にも大好評です。

第1部では、まず昨年度の発表会でのリーディング劇の様子を映像で見て頂き、引き続き大塚みどりさんをリーディング劇講師とする普段通りの練習の様子を見ていただきました。いつものように背筋を伸ばすなどのストレッチを行ったり（写真下）、大きな声で笑ったりなど体と心をしっかりほぐしてから、落語『まんじゅうこわい』の練習風景を公開。多くの方々の前で披露するわけですから、それはそれは緊張したのではと思いますが、それを堂々とやってのけてしまう利用者さんたちの心意気に“あっぱれ！”です。



第2部では、渡邊修先生（写真上）に「高次脳機能障害の回復をうながすために」と題したご講演をいただき、その中でリーディング劇というプログラムでの数々の効果についても具体的にお話し下さいました。コミュニケーション能力、他人の言葉を聞く力、理解する力、他者の気持ちを察する力、自己のアピール能力、等々です。リーディング劇は高次脳機能障害のリハビリにおいても有効なグループ療法ですとお話し頂き VIVID としても嬉しい限りです。

当日の参加者は約40人で、「みなさんが主体的に積極的に参加している姿が印象的だった」「それぞれが他者に配慮しつつ、非常に集中して取り組んでいた」「笑いにつられてしまった。笑いヨガのようにこれだけでも血流が良くなり幸福な気持ちになり回復につながると思った」など、数多くのご感想を頂きました。

リーディング劇の始まりは2010年度でしたので、すでに9年目に入っています。

最初は台本の文字を目で追って読むという段階からのスタートでしたが、毎年回を重ねるごとに一人ひとりが物語の風景、背景を頭の中で思い描くことから生まれる表現力を身に付け、着実に力をつけて今に至っており、継続の力を毎年感じています。

今年度は「まんじゅうこわい」、「目黒のさんま」という新たな落語2演目の稽古に励んでいます。衣装をつけて化粧も施す3月23日の本番が、どんな舞台になるのか今からワクワクしています。

ミニデイ担当・北古賀克美

フレスタとミニデイそれぞれの利用者さんからの寄稿です。

みなさま、はじめまして！

今、楽しみが多くて、とても嬉しいです！

あっ、まず自己紹介を簡単に。昭和43年3月生まれA型、東京都練馬区出身、今これを書いている時点では50歳です。

高次脳機能障がいになるまでは、仕事と酒の毎日だったように思います。

けど、この病気になってからは、リハビリで障害者スポーツ大会(卓球)に出て、見事金メダルを取ることができました。音楽療法では、今ミュージカル風の劇をやっているのですが、その演目の台本を書いたり、中村橋のだんだんさんには、ひとつきに1回位のペースで折り紙のボランティアで講師をやらせて頂いたり、もちろんフレッシュスタートでも、自主製作品として折り紙作品を販売させて頂いたり、スタッフや利用者の方々とお話をさせて頂いたり、元気

な時にはできなかったことが、今できていると思います。

これからも色々な事にチャレンジしていきたいと思っています。

(フレスタ 角田 敬)



金メダルを胸に (写真右)

VIVIDでの1日

私は2008年からVIVIDのミニデイに参加しています。

この度、3月末から、国立障害者リハビリテーションセンター(国リハ)に入所することになりました。

ミニデイ11年間の中で、一番印象に残っているのは、たかに太鼓さんの獅子舞です。

音楽の時間では、川口先生の伴奏で歌ったり、とても楽しんでいます。

リーディング劇で大塚さん指導の下で、表現力が付きました。

ボイストレーニングを川口先生に習い始め、声を出すことがとても好きになりました。

そして、一人で簡単にできる料理も勉強になりました。考えてみたらいろんな体験をさせてもらいました。

国リハに入所したら、ほどほどにいろんなことに取り組んでいこうと思っています。

(ミニデイ 矢野和久)



フレスタ1周年

1周年記念 オール半額セール

4月1日(月)～5日(金)

営業時間 10:30～16:00

お見逃しなく！

1周年記念イベント

4月6日(土) 10:30～12:00

スライドによる1年の振り返り など

その他の内容は検討中

お楽しみに!!

イベント開催時間に、ショップも臨時営業いたします。

VMDからのお願い

既に何度かご寄付のご協力いただいたみなさま、ありがとうございます。ごフレスタの経営は、まだまだ厳しいです。ご協力はいつでも受け付け中！よろしくお願いします。

【銀行口座への振込の場合】

三井住友銀行 国立支店

普通 7907442

名義 特定非営利活動法人 VIVID

【郵便振替口座への振込の場合】

郵便振替口座 00130-7-780312

編集後記

1年が通り過ぎていく。フレスタの登録者数は予定通りには増えてはいないが、現在20人に手が届くようになった。それだけの出会いがあったということだ。しみじみ～(金尾)